

科目名	仏教文学					単位	2.0
担当教員	沼波 政保						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	5206

●授業のテーマ
仏教文学

●到達目標

日本文学史上代表的な仏教文学作品の考察を通して、仏教思想を基底に持つ精神構造および人間観についての知識を得、それが我々にも普遍する精神であって今日に至るまでの日本文化の精神的基盤になっていることを理解する。

●学習内容(授業概要)

言うまでもなく、日本文化は初期のわずかな時期を除いて、仏教思想の影響を受けないものはない。仏教文学は、単に仏教の教えを説くだけのものではなく、そこに人間の心理が見られ、精神的営みが見られて、文学性の高いものとなっており、特に人間への凝視が深く、今日の我々にも示唆するものが大きい。そこで、仏教文学の代表的作品について攻究し、仏教思想の上に成り立った文学作品のすばらしさを認識する。

●学習内容(授業計画)

- 第1講 仏教文学とは
- 第2講 経典と仏教文学
- 第3講 日本文学史における仏教思想
- 第4講 『源氏物語』
- 第5講 『平家物語』①
- 第6講 『平家物語』②
- 第7講 『山家集』(西行)
- 第8講 『方丈記』(長明)
- 第9講 『徒然草』(兼好)
- 第10講 中古の仏教説話集
- 第11講 中世の仏教説話集
- 第12講 謡曲
- 第13講 法語
- 第14講 芭蕉
- 第15講 結講

●準備学習・事後学習の内容

前回の授業内容を理解した上で授業に臨む。
毎回の授業後には、授業の内容をノートに整理し、理解しておく。

●成績評価方法・基準

授業中に随時行なう臨時テスト(2~3回)の成績(70%)に受講態度(30%)を加味して評価する。

●テキスト(必携)

適宜、プリントを配布する。

●参考文献/その他

適宜、紹介するが、その他に、日本文学作品はできるだけ読むことをこころがけてほしい。

●履修上の注意

主体的態度で受講することを望む。遅刻・欠席を慎み、必ずノートを取る。ノートを取らないとテストに対応できない。